

NICU（新生児集中治療室）は6床。早産児や低出生体重児などのリスクの高い新生児へ、高度な医療ケアを行う。出産前後、全てを網羅する「地域周産期母子医療センター」なのだ。



一人ひとりに寄り添う、安心・安全な医療を目指して

# 市立豊中病院

巻頭特集

豊中のみならず、北摂における地域の中核病院として、多くの専門職によるチーム医療で高度かつ専門的な診療に取り組む『市立豊中病院』。同院のがん医療と周産期医療の“信頼される医療”への思いを取材した。

「高精度放射線治療装置」によるがん治療が実施可能。各診療科の主治医と連携し、放射線科医、診療放射線技師、看護師のチーム医療で高精度の治療・診療に取り組む。



**市立豊中病院**  
〒560-8565 豊中市柴原町 4-14-1  
06-6843-0101 (代)  
<http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/>

## 安心で安全、信頼される 地域完結型の病院を目指して

昭和19年に「豊中市民病院」として発足し、昭和29年に「市立豊中病院」と改称して以来、豊中市はもとより北摂の中核病院として地域の医療を支えている同院。診療科は24科、病床数は613床を有し、がん診療、救急医療、周産期医療などの分野で、専門性の高い医師、看護師、薬剤師などの多職種でチーム医療を実践し、より高度で専門的な診療に取り組む。

高齢化社会が進む中、様々な疾患を抱える患者も多く、多職種・多分野一丸となったチーム医療が求められる。今、病院内ですべてを完結するのではなく、地域の医療機関との連携を強化し、病気、事故、妊娠、出産など、家族に起こりうる病院に関する多くのことを、急性期中核病院として診ることが出来る地域完結型の医療機関を目指し、より高度で良質な医療を追求し続けている。



産科病棟 師長  
助産師 齊藤 百恵さん

出産の喜びを一緒に分かち合えることが、助産師のやりがいにつながっています

## 24時間365日、いかなる状況でも 受け入れてくれる安心感

同院の産婦人科は平成19年に認定を受けた「地域周産期母子医療センター」として、NICU（新生児集中治療室）を完備し、小児科や内科など各診療科と連携し、持病を持つ妊婦や早産の危険がある妊婦、早い週数の赤ちゃんに対して高度な医療ケアを行っている。さらに大阪府のOGCS（産婦人科診療相互援助システム）のもと、多数の病院と連携し、常に救急の母体搬送を受け入れる体制を整えている。もちろん通常の産産も受け付けており、産婦に寄り添い、産婦が主体となる安全で自然なお産をサポートしている。さらに同院の産科の安心たる由縁は、



院内助産「はぐみ」は、布団の上で陣痛から出産まで楽な体勢で過ごすことができる

看護師全員が助産師の資格を持つところにもある。妊婦検診から分娩、産後の身体や母乳のことなど、退院に至るまで助産師のケアが充実している。

助産師主導で出産をサポートする院内助産「はぐみ」も、この特徴だ。「はぐみ」は布団の上で過ごせるので、経験した方からは「好きな体位をとることができて、助産師との距離が近く、すごく安心できた」との声が聞かれる。このように一人ひとりに合ったお産を選択でき、またもしもの緊急事態にも即対応が可能な総合病院が、同院の産科である。

## がん医療は「チーム医療」！ 療養生活に配慮した診療を

「日本では3人に1人ががんで亡くなっている」と言われるほど、身近な病気になったがん。増加とともに高齢化も進み、より高い医療技術と多様な治療が必要とされる中、同院は平成14年、厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」に指定される。日本における5大がん（肺がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、乳がん）をはじめ、様々ながんに対応している。指定を受けてからの変化としては、技術面の向上に加えて、医師目線ではなく、患者と十分に話して生活環境なども加味した上で、患者目線で医療を考えるようになった、という点が重要なのだそうだ。



抗がん剤などの薬物療法は通院での治療も増えている

「まだ一般的には、がんになったら外科で手術、と認識されがちですが、がん医療で最も重要なのは「チーム医療」と話す今村博司医師。手術、化学療法、放射線治療、緩和ケア…、多方面の治療が必要だ。がん治療には身体的にも心理的にも経済的にも負担がかかる。それを専門性の高い医療スタッフによるチーム医療で和らげ、少しでも患者自身とその家族の希望を叶え、療養生活をサポートしていく。豊能二次医療圏（豊中市、池田市、吹田市、箕面市、豊能町、能勢町）のがん医療の重要拠点として、高い医療技術を提供し続ける同院の存在は地域にとって心強い。



がん看護専門看護師  
師長 二宮 由紀恵さん

がん患者がその人らしく療養していけるように、患者自身とその家族の生活を軸としたサポートをしています



がん診療統括センター長  
医師 今村 博司さん

急性期病院として患者さんの多種多様なニーズにきちんと応えていくことが大切だと思います



産婦人科 医長  
医師 辻江 智子さん

救急搬送される妊婦さんは大きな不安を持って来られるので、その方々にも安心して出産できる支援を常に心がけています